

(様式1)

# 令和5年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立曳舟小学校
校長名	松塚 智加子

## 1 本校の学力に関する状況

### (1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・4年連続して区平均を全ての観点で上回り、全国平均も、全68観点が上回った。向上要因としては、教師の授業改善への日常的な取り組みや、CD層への放課後補習教室の実施の成果である。</li><li>・2年・3年・5年のCD層の平均割合は1割であり、4年・6年は2割である。これは、本校のAB層の増加の要因となっている。</li><li>・算数は、低学年から徹底した基礎学力の反復練習や習熟度別少人数授業の効果があり、全国平均を50とした標準スコアをどの学年も5ポイント以上大きく上回った。</li><li>・国語は、昨年度からの校内研究の成果もあり、思考・判断・表現の平均正答率は、目標値の10%以上、主体的に学習に取り組む態度は20%以上となった。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・5・6年生の社会における知識・技能の観点が10ポイント以上の結果になったのは、学習教材「問題データベース」を活用して、反復練習したからである。今後も継続して取り組める環境を整備し、知識を習得させていく。</li><li>・算数は、どの学年の観点も全国平均を上回った。今後もCD層へのふりかえりシート等を活用した個に応じた学力の定着や、低学年からの毎時間の100問計算や応用問題の繰り返し練習等を行うことで、基礎学力の定着を図る。</li><li>・学力向上委員会を中心に、「組織的な取り組み」と「継続」「徹底」のキーワードを基に、学校全体で学力向上に努める。</li><li>・知識・技能だけでなく、それらを活用して思考・判断・表現の能力も向上させ、学んだことを生活の中で生かせるようにする。</li><li>・生涯にわたって自ら学ぶ意欲を育てる。</li></ul>

### (2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・「好きな教科や授業がありますか」の設問では、肯定率が全学年91%以上である。3年から5年は96%以上で、全国平均を上回った。特に3年と5年は98%以上で、顕著に平均値が向上した一因となっている。</li><li>・「家で予習や復習はしますか」の設問に対して、3年から5年の肯定率が5割以上である。特に4年は62%以上で全国平均を大きく上回った。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・3年から5年の「好きな教科や授業がありますか」の設問で全国平均を上回った反面、6年は91%で全国平均をやや下回った。教師が授業改善をし、さらにつまずきのある児童の基礎学力の定着を図ることで、好きな教科を増やす必要性がある。</li><li>・「家で予習や復習はしますか」の設問で、半数の児童が肯定的な結果だが、3年・5年・6年が全国平均を下回った。特に6年は37%と結果が落ち込む。家庭学習の定着が学力向上のポイントと考える。家庭学習の定着や宿題の質の向上を図る。</li></ul>

### (3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・2年生から6年生の東京ベーシックドリル診断シートの正答率が、73%以上及び満点の割合は44~75%である。</li><li>・令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果は国語・算数において全国の平均正答率を10%以上上回った。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・東京ベーシックドリル診断シートの正答率が3年と6年が低い傾向にある。数学的な考え方を問う問題や知識理解に課題がみられる。</li><li>・「全国学力・学習状況調査」の正答数が11~14問の児童が半数である。A層が大きく伸び、C層が減少した。今後CD層の底上げが課題である。</li></ul>

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

### (1) 生活・学習の基盤づくり（学校経営方針より）

生活・学習基盤がしっかりできていることが、学力向上の土台となる。このことは、入学したその日から継続して指導し、確実に身に付けさせる。

- (1) 基本的な生活習慣の確立
- (2) 基礎的な学力の定着・向上
- (3) 論理的思考力・表現力を高める
- (4) 探究的な学習の推進
- (5) 読解力の育成（校内研究）
- (6) 情報活用能力の育成（多様なメディア活用）

### (2) 教師の授業力育成や授業改善の推進

#### 【具体的な授業改善の方法】

- (1) 授業の準備として、学習指導要領を確認し、教材研究をしっかりと行うとともに、児童に何を学ばせるのか単元の目標を確認する。
- (2) 授業のはじめに、本時の「めあて」を板書し、本時の流れとゴールを児童と共有する。
  - \* 課題を把握し、本時の流れやゴールを確認する。
  - \* 前時の復習や既習事項の確認。
  - \* 日付や教科書ページ等も板書する。（丁寧なノート指導）
- (3) 授業の展開（学習方法の工夫）
  - \* 自力解決・・・自分の考えをしっかりとたせる。予想や仮説を立てさせる。
  - \* 学び合い・・・ペアーワークやグループ学習等に取り組み深める。考える時間の確保。
  - \* 学び合いを踏まえて更に自力思考し発信する。または、適用問題に取り組む。
  - \* 授業の山場である22分30秒を意識した授業計画をする。
- (4) まとめと振り返りの時間の確保
  - \* まとめを確実に行うとともに、振り返りを記入させ、何を学んだのか、何ができるようになったかを確認する。
- (5) 授業の始まりと終わりの時間を守り、1単位時間45分の学習時間を確保する。
  - \* 「活動あって学びなし」にならないようにする。
- (6) 問題解決型の授業を実践し、①自力解決する時間、②学び合いの時間、③学び合いを踏まえて更に自力思考する時間を確保した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を展開する。
  - \* 「個」→「全体」→「個」の流れを踏まえた授業展開を行う。
- (7) 少人数習熟度別指導などを活用（多様な授業形態やICT活用）

### (3) 校内研究を活用した取り組み

本校は、令和元年・2年度学力向上のためのマネジメント推進校「授業内容に合った課題の出し方について」研究してきた。その取り組みを令和3年度にも継続し、校内研究会を「算数科」に位置付け、授業内容の工夫やICTの活用、毎日や長期休業中の宿題や課題等の内容を検証、工夫を図った。

令和4年・5年度は「国語科」の読むことを通して、読解力向上に取り組み、実践、検証することで、児童の読み解く能力の向上や定着を目指すとともに、教師の授業改善をより一層推進する。

- (1) 授業のねらいを明確化し、そのねらいが定着しているかが分かる宿題等の開発。
- (2) ICTを活用した学習教材の開発と、宿題等の出し方について検証する。
- (3) 授業内容にあった宿題や課題を開発し、検証する。
- (4) 低・中・高学年に、研究授業を実施し、検証する。
- (5) 令和5年度区学力調査を2月から3月に活用し、春季休業中の宿題としても活用。

### (4) 学力向上委員会の組織の活性化と充実した取り組み

#### 【つまずきのある（C層、D層）児童への取り組み強化】

- (1) 振り返り強化期間の設定（全学年実施）
  - ※「ふりかえりシート」や「東京ベーシックドリル」「ミライシード」等活用する。
  - I期（5月）・・・・・・・・本校のみ
  - II期9月1日～10月6日
  - III期（11月）・・・・・・・・本校のみ
  - IV期1月9日～4月まで
- (2) 学力向上委員会が中心となり毎週、月：2年生、火：3・5年生、木：4・6年生を対象に放課後補習教室を実施。長期休業中の補習教室の企画・運営を提案する。夏休み補習教室は、全学年で実施する。
- (3) 令和6年1月から3月までに、当該学年の振り返りを実施（全学年実施）
  - SSSが長期休業中にふりかえりシートや学力調査の問題を印刷するなどして準備。
- (4) 算数プリントやふりかえりシート等を活用し、以下の事項の共通認識を図り定着させる。  
各学年修了時までに身に付けさせたい内容
  - 1学年 10の合成、ひらがな、カタカナ、繰り上がり足し算、繰り下がり引き算
  - 2学年 かけ算九九
  - 3学年 わり算、ローマ字
  - 4学年 47都道府県、東京23区
  - 5学年 小数四則計算
  - 6学年 分数四則計算
- (5) 学習教材「問題データベース」（理・社）の活用と定着（3～6年生）。
- (6) 新聞教材「よむYOMUワークシート」の活用と検証（5年生）。
- (7) 令和5年度東京ベーシックドリル診断Aを7月、令和5年度東京ベーシックドリル診断Bを12月、令和6年度東京ベーシックドリル診断Aを3月に実施する。

### 3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・ 令和5年度墨田区学習状況調査を3月に実施する。次年度の学年問題を実施することで、基礎学力の定着度を測るとともに、全国値より15%以上まで引き上げる。
- ・ 授業改善の取り組みとして、全教員の授業スタイルが、「めあて」の提示→「授業展開（自力解決と学び合いの授業形態の導入等）」→「まとめ」とする。
- ・ 校内研究主題である国語科「目的に応じて的確に読む力を育てる指導法の工夫」を実現し、どの学年も基礎学力の定着と説明的文章の読むことの正答率を向上させる。
- ・ 学習意欲に関する項目を、前年度比5%以上に引き上げる。